

平泉を掘る

今回の調査では7カ所の井戸跡が見つかり、1.5~2.5m程度の深さで底に到達するものが多いようです。これは地下の水脈が比較的高いためと考えられます。写真1の井戸の中からは曲物(写真2・3)が出土しました。この他にも、完形のかわけ(写真4)や材木(写真5)などが出土している井戸もあります。



写真1 井戸跡が掘りあがった様子
井戸跡に埋まっていた土を全て掘った状態です。この井戸の深さは約1.8mです。水がすぐに湧いてきます。底近くからは写真2・3の曲物が出土しました。



写真4 かわけが出土した様子
井戸跡の底近くから、壊れていない完形のかわけが出土しました。



発掘最前線 184

— 志羅山遺跡第118次発掘調査 その3 —



写真2 曲物が出土した様子
曲物はスギやヒノキなどの薄い板材を円形や楕円形に曲げ、合わせ目を桜や樺の皮で作ったひもで留めて作る容器です。今回見つけた曲物は、直径、高さ共に10cm程度のものです。



写真3 出土した曲物
写真2の曲物を水洗いした状態です。縁の部分は一部しか残っていませんでしたが、合わせ目のひもはきれいに残っていました。



写真5 材木が出土した様子
材木は長さ約110cm、幅約15cm、厚さ約10cmあります。当時の人が井戸を廃棄する際に、井戸枠の部材を取り切れずに残った可能性があります。

■発掘体験
自分の肩幅ぐらいのスペースを移植ベラで平らに掘るといふ説明と作業員の指導を受けながら、生徒たちは「かわらけ」を見つけてことができました。

■拓本体験
長島地区から出土した縄文土器などを和紙で包み、スポンジで濡らし空気を抜いた後、墨で縁取って雑誌に挟み水分を取って、拓本を完成させました。

町教育委員会では、学校の開催希望に応じて、町内児童生徒へ郷土の歴史と文化、産業などを分かりやすく学習する機会を提供する「わくわく平泉スクール」を開講しています。今回は、本事業の一環として町文化遺産センターの協力のもと、発掘調査中の志羅山遺跡で9月2日、3日に平泉中学校の1年生が、9月4日に平泉小学校の6年生が発掘体験と拓本体験をしました。



① 中学1年生の発掘体験 / ② 中学1年生の拓本体験 / ③ 平泉小学校6年生の拓本体験 / ④ 平泉小学校6年生の発掘体験



わくわく平泉学スクール 発掘・拓本体験

Interview



わくわく平泉学スクール担当
教育委員会事務局

主事 安倍雅人

郷土を知るきっかけに
町内では当たり前となっている遺跡などの風景も、他の地域ではなかなか目にすることはできない貴重なものです。こういった平泉ならではの歴史学習や体験学習を通して、町の将来を担う人材の郷土愛の醸成につなげていければと思っています。

Voice



平泉小学校6年生
朝田勇希さん

発掘は難しかったけど、掘り方を教えてもらって、かわらけが見つかったので楽しかったです。



平泉小学校6年生
東郷亜希さん

拓本体験は、簡単に土器の写しが取れて楽しかったです。発掘体験もまたやってみたいです。



平泉中学校1年生
渡辺玲鳳さん

発掘体験は、見つけれなかったけど、意外とあっさり見つけることができました。ビックリしました。



平泉中学校1年生
浅利心結さん

発掘作業をするのは大変だったけど、かわらけを見つけた時は、達成感がありました。